

# 佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター 研究調査棟内

TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

## 小城・多久から確かな一歩を踏み出す

### 第42回研究大会分科会に100名が集う

10月26日(金) 小城市・多久市の5会場  
第42回佐賀県人権・同和教育研究大会分科会  
が開催されました。

学校教育・社会教育関係者をはじめ、PTA、NPO団体などから合計千名を超える参加者がありました。「お互いの学びと気づきを大切に、人権教育・啓発・まちづくりへの行動を起こしていこう!」つながり合い、束ね合いながら、確かな一歩を「」の大会テーマのもと、各会場で報告者と参加者だけでなく、参加者同士が交流する場も多く設定され、連携の大切さを再確認する大会となりました。

次回第43回研究大会は、来年8月8日(木)に武雄市文化会館で全体会を、10月18日(金)に藤津地区で分科会を開催する予定です。



人間関係づくりの実践報告があった第3分科会 =ドッキング三日月

- 第42回佐賀県人権・同和教育研究大会分科会**
- 第1分科会 (人権啓発)
    - ◇唐津市における人権・同和教育、啓発の取り組みと課題
    - ◇行動につながる人権・同和教育、啓発を考える
    - ◇人権コンサートなら 何かができる!
  - 第2分科会 (環境づくり)
    - ◆「こんにちは 母子保健推進員です」
    - ◆自分のこと 全然わかってくれん
    - ◆自信と安心を土台にした子ども支援
  - 第3分科会 (人間関係づくり)
    - ◇You changed my world. 君が「世界」を変えた。
    - ◇「笑顔でつながろう」
    - ◇友だちとなら 何でもできる
  - 第4分科会 (学習活動づくり)
    - ◆出会いを力に心をつなげて
    - ◆命を大切に、思いやりの心を育てる学校づくり
    - ◆心の壁をのりこえて
  - 第5分科会 (人権のまちづくり)
    - ◇「みんなで築く 市民協働のまちづくり」
    - ◇望む性を生きる
    - ◇「PTAの挑戦」

### 報告タイトル一覧

詳しくは佐同教HPをご覧ください



各分科会ではグループ協議が行われ、それぞれの参加者が自分の実践や思いを語る場面が見受けられた。

↑ 第1分科会（桜楽館） → 第2分科会（小城公民館）



## 参加者同士がつながり、行動を起こしていこう！



↑ 第5分科会では、展示と交流参加団体のアピールも開催  
⇨ 多久市中央公民館  
← 300名以上が参加した第3分科会。職種・職種を超えた交流も！ドゥイング三日月



⇨ 人権バンドも登場した第5分科会  
⇨ 多久市中央公民館



↑ 第4分科会是新装された芦刈地域交流センター「あしぱる」で開催され、参加者による熱心な論議が行われた。

# 佐同教課題別研究会

## 「就学前教育」

西九州大学神園キャンパス

2012. 10. 14 (日)



10月14日(日)に佐賀市の西九州大学神園キャンパスで開催した佐同教課題別研究会「就学前教育」には、130名を超す参加者がありました。保育園(所)・幼稚園関係者や学校教職員のみなならず、社会教育関係者・行政関係者など昨年を40名以上も上回る参加があり、子どもたちの育ちをみんなを支える取り組みへの関心の高さがうかがえました。

# おとなは子どもに幸せに責任がある

## 熊丸さんの講演に130名を超す参加者が共感

た『子育てひろば』から見えてきたつながりや場がつくり出す人の輪、地域の輪」と、社会福祉法人くすのき中央保育園の近藤みゆきさん、学校法人 藤影幼稚園の宮地泰枝さん、佐賀市立東与賀小学校の北村勢津子さんによる報告「日新小学校の1年生になるよう一人ひとりを大切にしたい幼保



小連携「く」がありました。午後、幼児教育専門家の熊丸みつきさん(写真上)

の特別講演「今を生きるすてきな子どもたちに伝えたいく親として、大人として、人生の先輩として」があり、これまでの経験をふまえ、「子どもは自分を信じて愛してくれるおとなに接することで、笑顔や優しさを身につける」など、子育てにおいて大切なことをパワフルに語られました。

## 参加者の感想より (一部抜粋)

【野口さんの報告について】

・町全体で子どもたちを見守り育むことによつて将来を担う大人になった時、「この町に生まれ、育ててもらった」という感謝の気持ちと次の世代へのつながりが生まれるのでしょね。

【近藤さん・宮地さん・北村さんの報告について】

・幼保小連携は、小学校側・幼稚園側・保育園側の互いの歩み寄りがとても大切だと改めて感じました。私たち、教師・保育者がどのように向き合っていくかが、大事になると思います。

【熊丸みつきさんの特別講演を聴いて】

・子どもにかけるおとなの笑顔がとても大切なのだということを強く感じたお話だった。良いところはたくさん褒めて、いけないところはしっかりと伝えていく。これがしつけというものだということを教えていただいた。

・今まで聴いた講演の中で、こんなに心の中に入っていくお話は初めてでした。時間がたつのがあつという間で、もっといろいろなお話が聴きたいと思いました。

# 県外研修報告

社会教育部

## 県外現地研修に参加して

多久市社会教育指導員 福島 かおり

10月1日(月)・2日(火)の二日間、県内の社会教育関係者15人が参加して、広島県福山市で現地研修を行いました。

一日目は、福山市神村(かむら)町の神村コミュニティセンターで、部落解放同盟神村2区支部書記長の岡田さんより神村地区の歴史や現在の事業活動についての講話と地域のフィールドワークをしていただきました。



神村2区は急傾斜に面した地域にあり、そこを居住区とし、田んぼも作れない傾斜地では、日雇の仕事がほとんどで安定した収入もなかったそうです。

が、当時飲み水を確保するために苦勞して設置した上水道の跡や、消防車も入れない狭い道の名残が地区のあちらこちらにあり、地区の人々の当時の生活が想像できました。

「自分たちで学ばなければ差別は変わらない。」と解放運動の理論を学び、子ども会の活動を始められ、学校の同和教育担当の先生や、広島大学分校の学生の協力のもと、進学率の向上をめざしたそうです。また、神村には一ヶ所しかなかった保育所建設運動に地域一体で取り組み、人権意識を高める活動へと繋げていったと話されました。

地域活動や周辺の人々との交流を通して、解放運動を理解してもらうことが大切であり、地区外の人も自分たちの頑張りを見てくれていると話されたのが印象的でした。

### 人権のまちづくりは自分たちで創っていくもの

二日目は、福山市における人権教育推進と部落解放運動についての研修を行いました。

福山市では「人間環境都市」をまちづくりにおける基本理念とし、人権文化の根付いたまちづくりをめざしているということでした。人権施策の具体策として、市民平和の集い、市民平和大会をはじめと、市内七ヶ所で行う児童生徒人権平和作品展や市広報紙・町内機関紙の発行など、また福



山市人権交流センターでは人権・平和フェスタなどを開催しているとのことでした。

また、地域別住民学習事業が1980年から実施され「学習から行動へ」ということで、現在58学区で「身元調査お断りステッカー運動」

が行われているそうです。

部落解放運動については、部落解放同盟福山市協議会の小山事務局長に話をさせていただきました。福山市役所職員でもある小山さんは、両方の立場から見た同和教育について話され、「さまざまな人権問題に取り組んできたが、それをどうやってまちづくりに活かしていくかが難しい。」「さまざまな立場の人がいて、まちづくりに何が必要なのか今も考えている。」など、私たち社会教育にたずさわる者に共通する課題があることを認識しました。今回の研修で、人権のまちづくりは自分たちで創っていくもの、一人ひとりの人権意識が大切だと改めて感じました。この研修をこれからの啓発活動に活かしていきたいと思えます。